

農学生命科学部

# 第23回 研究推進セミナー

【第35回 発生・生殖生物学研究室コロキウム 共催】

【新学術領域研究 配偶子産生制御 共催】

## piRNA経路によるレトロトランスポゾンサイレンシング機構

演者：石津 大嗣 先生

東京大学大学院

理学系研究科生物科学専攻塩見研究室 助教

日時：平成30年1月25日（木）

17:40～19:10

場所：弘前大学農学生命科学部402室



20～30塩基長からなる機能性小分子RNAによる遺伝子発現抑制現象は、RNAサイレンシングと総称される。PIWI-interacting RNA (piRNA)は、生殖細胞特異的に発現する小分子RNAであり、生殖細胞においてPIWIと呼ばれるArgonauteタンパク質と結合することで、相補的な配列を持つレトロトランスポゾンの発現を抑制する。piRNAによるRNAサイレンシングは、真核生物に広く保存された遺伝子発現制御機構であり、次世代に遺伝情報を継承する生殖細胞において、転移因子による有害変異から自身のゲノムを護るという重要な役割を担っている。今回のセミナーでは、ショウジョウバエをモデルとして、生化学的解析や次世代シーケンス解析を駆使することで明らかとなったpiRNA生合成のメカニズムについて最新の知見を紹介したい。

主催：農学生命科学部生物学科 発生・生殖生物学研究室

小林一也（内線3587 kobkyram@hirosaki-u.ac.jp）

共催：研究推進委員会 学部後援会